小淵沢町埋蔵文化財調査報告第８集

神　田　遺　跡

山梨県北巨摩郡小淵沢町松向地区
県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財
調査報告書

１９９０

山梨県北巨摩郡小淵沢町教育委員会

峡　北　土　地　改　良　事　務　所

小淵沢町埋蔵文化財調査報告第８集

神　田　遺　跡

山梨県北巨摩郡小淵沢町松向地区
県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財
調査報告書

１９９０

山梨県北巨摩郡小淵沢町教育委員会

峡　北　土　地　改　良　事　務　所

序　　文

小淵沢町は古来より気候、風土に恵まれ、いまなお、随所に豊かな緑が見られます。このような自然環境に恵まれた我町は、古くから人々が生活を営んでおり、祖先の文化遺産である埋蔵文化財の宝庫であります。この度、松向区の県営圃場整備事業に伴って、松向字神田の神田遺跡発掘調査を行いました。その結果、平安時代の住居址、土壙が発見され、小淵沢町の歴史を解明するためにも、また北巨摩地方の歴史を知る上にも、貴重な資料と言えましょう。

本報告書が、本町の住民の方々にひろく活用されることを願ってやみません。

最後に調査、整理にあたって多大な御協力を賜った、県文化課、峡北土地改良事務所の関係各位に深く感謝の意を表します。

平成元年３月31日

小淵沢町教育委員会

教育長　　清　水　金　富

例　　言

1．本書は、昭和63年度県営圃場整備事業に伴って発掘調査された、山梨県北巨摩郡小淵沢町松向字神田に所在する神田遺跡の調査報告書である。

2．発掘調査は、峡北土地改良事務所との負担協定による委託と文化庁、山梨県の補助を受けて、小淵沢町教育委員会が実施した。

3．発掘調査及び整理は、小淵沢町教育委員会で行った。

4．発掘調査は、昭和63年６月17日から同年10月２日まで実施した。

5．写真撮影、本文執筆及び編集は佐野が行った。

6．発掘調査、出土品等の整理及び報告書の作成にあたって次の方々のご指導、ご助言をいただいた。記して感謝します。

坂本美夫（県文化課）、末木健（山梨県埋蔵文化財センター）、櫛原功一（山梨県文化財研究所）

7．発掘調査の出土器、記録図面、写真は、小淵沢町教育委員会で保管している。

8．調査組織

調 査 主 体　　小淵沢町教育委員会（教育長　清水金富）

調 査 担 当　　佐野勝広

事　務　局　　長坂今朝寿（教育課長）、植松正澄、岩波信司、浅川あつ子

調査参加者　　坂井ふじ、三井ちか代、内田とくえ

目　　次

序　　文
例　　言
Ⅰ　調査に至る経緯と経過…… 1
Ⅱ　遺跡の概観…… 1
Ⅲ　調査の方法と層序…… 7
Ⅳ　遺構と遺物…… 9
Ⅴ　まとめ……21

挿　図　目　次

第１図
第２図
第３図
第４図
第５図
第６図
第７図
第８図
第９図
第10図
第11図
第12図

図　版　目　次

図版１　遺跡遠影、遺跡近影
図版２　作業風影
図版３　第１号住居址・第２号住居址
図版４　第２号住居址・第２号住居址カマド
図版５　第２号住居址遺物出土状態
図版６　第３号住居址
図版７　第３号住居址カマド
図版８　第１号土壙　第２号土壙
図版９　第１号、２号住居址出土遺物
図版10　第２号住居址出土遺物
図版11　第３号住居址出土遺物
図版12　第３号住居址出土遺物
図版13　第３号住居址出土遺物　第１号土壙出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯と経過

小淵沢町では、農業の近代化を図るため昭和55年度から県営圃場整備事業を実施しているが、本事業に伴って昭和57年から埋蔵文化財の発掘調査を行っている。昭和63年度は松向工区の神田の約９haが圃場整備事業の対象として予定された。このため小淵沢町教育委員会は、埋蔵文化財の有無を確認のため昭和62年12月に試掘調査を行なった。その結果、黒褐色土中より、平安時代の土器片が出土したため、全面ないしは部分の発掘調査が必要であると判断され、当遺跡の措置について、県文化課、峡北土地改良事務所、町教育委員会の協議を行ったところ、昭和63年度県営圃場整備事業に先だって、峡北土地改良事務所の委託を受けて町教育委員会が主体となって、本調査を実施することになった。発掘調査は、昭和63年６月17日より開始し、10月２日で現地調査終了、その後引続いて整理作業を行い、報告書を完了したのは平成元年３月31日であった。

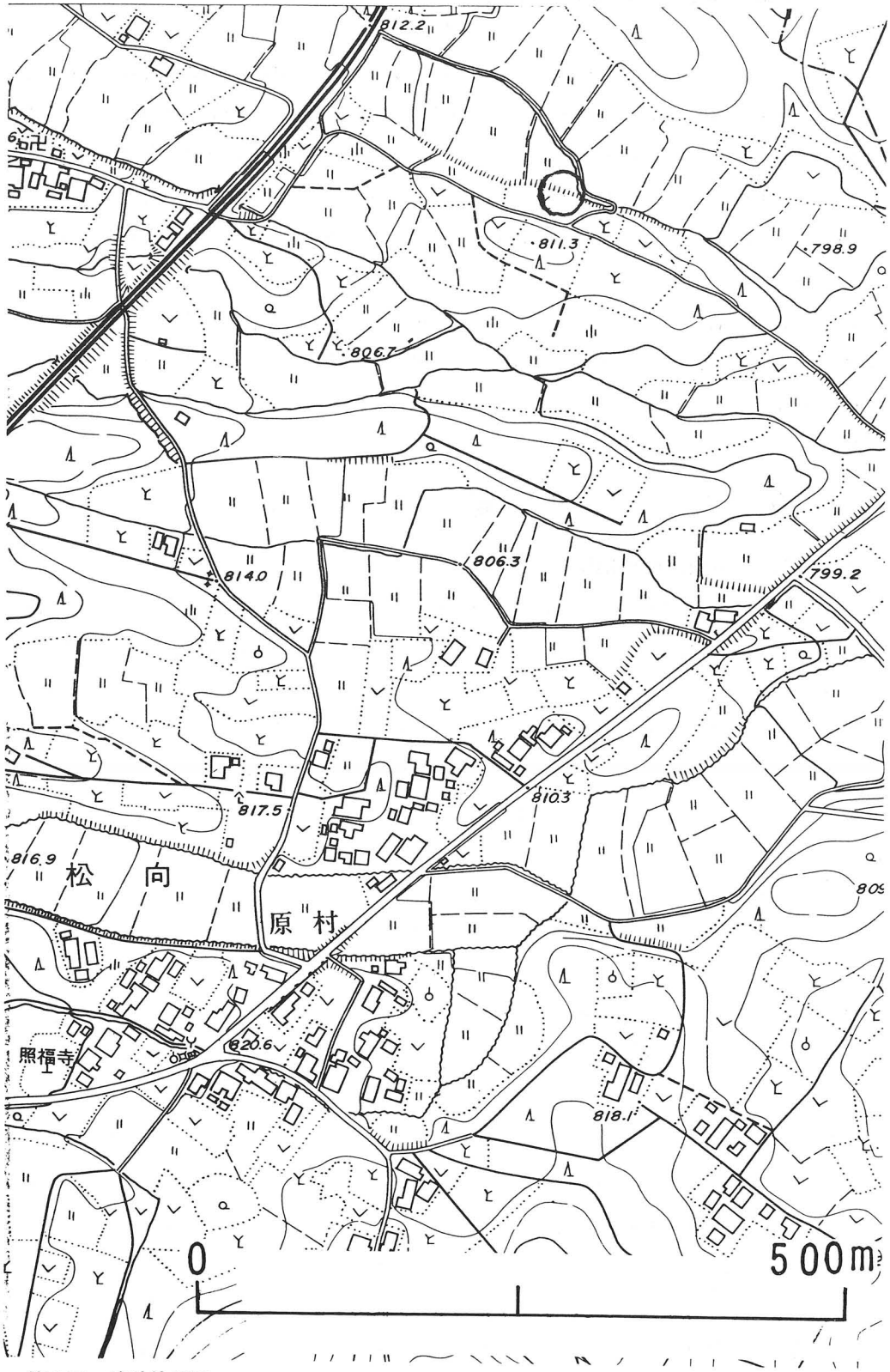
Ⅱ　遺　跡　の　概　観

１）遺跡の位置と地理的環境

神田遺跡の立地する小淵沢町は、山梨県の最北端にあり、北東を長坂町、南を白州町、西を長野県富士見町とそれぞれ接しており、八ケ岳南麓の一翼を担う北巨摩郡に位置している。八ケ岳南麓は、放射状に発達した谷とその間を走る尾根が規則的に並んでいる。そのため、風光明媚な地勢がつくりだされ、多くの景勝の地が存在する。尾根は緩やかな斜面が続き、耕作地・居住地として利用されている。このような地勢の中にあって、神田遺跡は、標高 710メートルの丘陵上に位置し、小淵沢町松向字神田に所在する。調査前の地目は水田と畑地であった。

２）歴史的環境

神田遺跡の所在する小淵沢町には、先土器時代に始まる数多くの遺跡が知られている。先土器時代の遺跡では、上笹尾地区の夏秋遺跡があり、細石核が出土している。又松向地区の杉の木平遺跡からは黒曜石のナイフをつくる剥片が発見された。縄文時代の遺跡は中期の遺跡が多く、昭和47年に中央高速道路建設に伴って発掘調査された中原遺跡からは 10軒の縄文時代中期の竪穴住居跡が検出されている。弥生時代の遺跡は、16ケ所の遺跡が発見され、特に中期初頭の遺跡が多い。古墳時代の遺跡は明瞭なものはないが、４世紀中頃の遺物が松向地区の宝ケ森遺跡で発見されている。奈良時代の遺跡はいまだに一つとして発見されていない。平安時代の遺跡は多く、上平出遺跡、中原遺跡、前田遺跡、石上り遺跡、竹原遺跡が発掘調査され、平安時代の集落の存在したことが知られる。中世以降の遺跡としては、下笹尾に地元では城山と呼ばれている「笹尾塁跡」があり、土塁の形跡を処々に残している。笹尾塁跡の南側には、数10人が入れる洞窟があり、この穴で警鐘を打ち鳴らし、敵のきたことを知らせたと伝えられている。

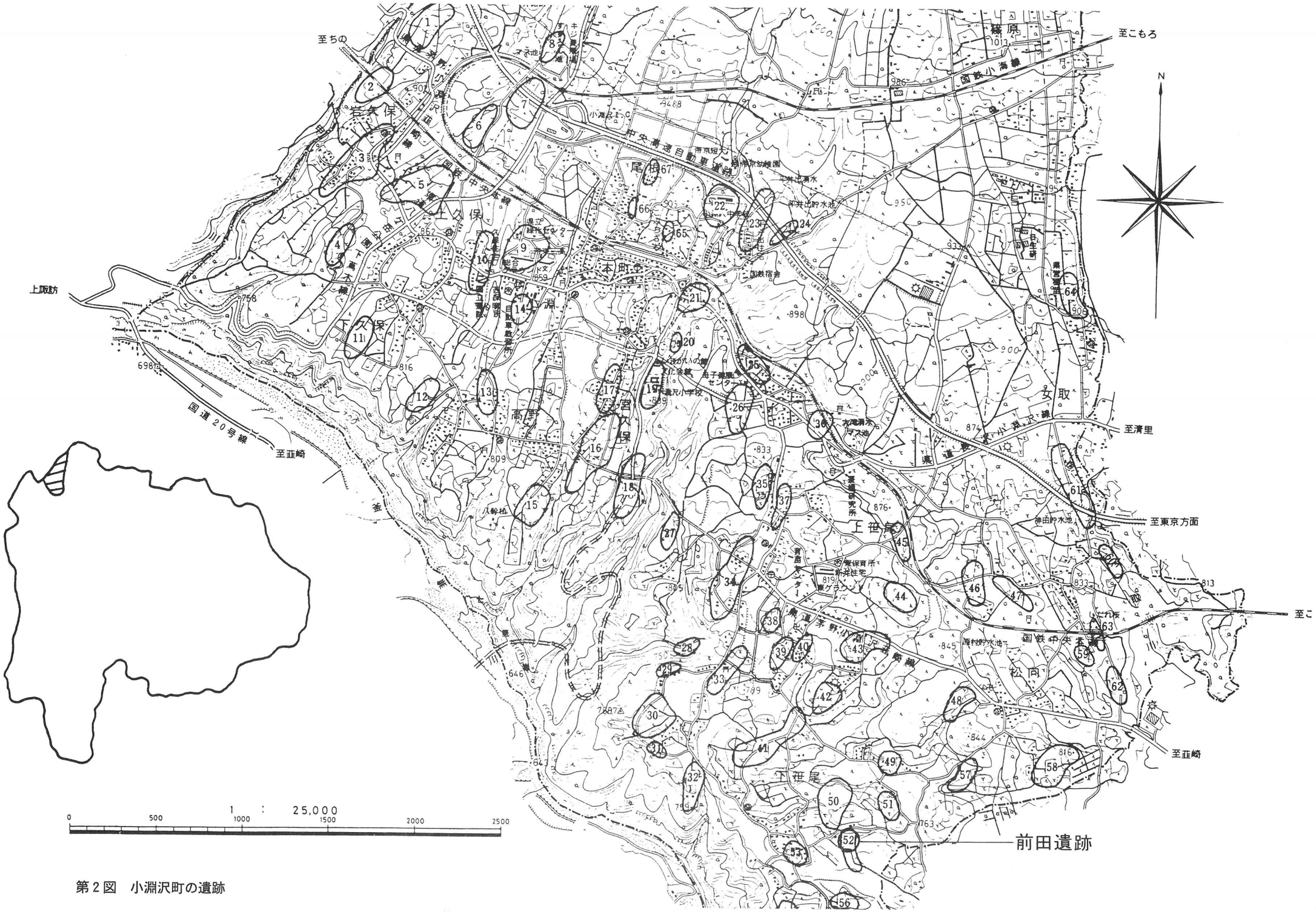

812.2
811.3
798.9
806.7
806.3
814.0
799.2
810.3
817.5
816.9
松 向
原 村
820.6
照福寺
818.1
0
500m

第１図　遺跡位置図

小淵沢町の遺跡

No.	遺跡名	所在地	地目	地形、標高	遺物	備考
1	上前後沢	岩久保上前後沢	畑、桑	尾根 940	縄文中(新道、曾利)、平安	
2	下前後沢	岩久保下前後沢	畑、桑、山林	〃 860	縄文中(五領ヶ原)、平安	
3	岩窪	岩久保、岩窪、岩窪前	畑、桑、宅地	〃 850	縄文前(諸磯B、十三菩提)中(五領ヶ台、藤内、曾利)	(文)信濃14の3 S37. 武藤孟 (所)大阪市立博物館、町教育委員会 (旧)岩窪前 S38. S47.
4	上宮原	岩久保、下原、上久保、上宮原	畑、桑、山林	〃 820	縄文中(五領ヶ台、曾利)	(旧)下原遺跡 S38. S47 S47.
5	竹原	上久保竹原、宗高上宮原	桑	〃 870	縄文中(井戸尼、曾利)平安	(旧)宗高B遺跡 S47.
6	宗高	上久保宗高	畑、桑、山林	〃 890	縄文中(曾利)後(堀の内)	(旧)宗高A遺跡 S47.
7	中原	上久保中原	畑、牧草、桑	〃 920	縄文中(五領ヶ台、新道、藤内、井戸尻、曾利)後(堀の内)平安	(文)山梨県中央道発掘調査報告書 S49. (所)山梨県教育委員会、井戸尻考古館
8	上井詰	上久保上井詰	山林、畑	〃 940	縄文前(諸磯C)中(井戸尻、曾利) 後期	(所)進藤亮三 S38.
9	淵平	尾根淵平	宅地、畑	〃 850	縄文中(井戸尻、曾利)	S38.
10	天神宮	上久保、天神宮下久保、東窪	宅地、畑	〃 840	縄文中(五領ヶ台、新道、藤内、井戸尻、曾利)後(堀の内)	(所)小林潤三(八ヶ岳山荘) (旧)東窪 S47.
11	下久保	下久保石上り	畑	〃 820	平安	
12	加室	下久保加室	畑、桑	〃 810	縄文前(十三菩提)中(五領ヶ台、井戸尻)	
13	高野	高野舟久保	桑、宅地	〃 820	縄文前、中(井戸尻、曾利)後	S38.
14	殿平	高野殿平	宅地、畑	〃 850	縄文中(井戸尻、曾利)	S38. S47.
15	前窪	高野前窪	畑、桑	〃 790	縄文前(諸磯C)中、平安	
16	上八里田(宮久保)	宮久保上八里田	畑、桑	〃 820	縄文前(諸磯)中(藤内、曾利)	
17	西屋敷	宮久保西屋敷、家の前	宅地、桑	〃 830	縄文中、平安	
18	深沢	宮久保下深沢、上深沢	山林	〃 820	縄文前(諸磯A)中期(曾利)	
19	上深沢 A	宮久保上深沢	宅地	〃 830	縄文中(曾利)	(所)町教育委員会
20	上深沢 B	〃 上深沢	墓地	〃 850	一字一石経70コ	(所)名取保
21	原東沢	〃 原東沢	宅地、畑	〃 870	縄文中、晩(後半)	(所)大正堂
22	小淵沢中学校々庭	〃 古番屋	学校	〃 910	縄文中、弥生(中)	(所)小淵沢中学校
23	上平井出	宮久保上平井出	道路、宅地、畑	〃 910	縄文中(五領ヶ台、藤内、井戸尻、曾利)後(称名寺、堀の内、加曾利B)平安	(旧)下平井出 (文)山梨県中央道報告書 S49. (所)県教育委員会
24	下平井出	宮久保下平井出	道路、桑	〃 900	縄文中(曾利)	
25	茶屋久保	上笹尾、茶屋久保	桑、宅地	〃 870	縄文前(十三菩提) 弥生中	
26	夏秋	上笹屋、夏秋	桑、畑	〃 850	縄文前(諸磯C)中(五領ヶ台、曾利)弥生中、(先土器)	
27	中深沢	上笹尾、中深沢	桑、畑、山林	〃 800	縄文中	
28	加倉 B	下笹尾加倉	畑	〃 800	縄文前(十三菩提) 中(五領ヶ台)	S47.
29	加倉 A	下笹尾加倉	畑、山林	〃 790	縄文中	S47. (旧)天狗岩
30	田頭	下笹尾田頭、天狗岩	畑、桑	〃 790	縄文前(諸磯C) 中(井戸尻、曾利) 弥生中	
31	耕地久保	下笹尾耕地久保	桑	台地 770	縄文中	
32	笹尾塁跡	下笹尾耕地久保	桑、山林	尾根 750	縄文前(諸磯)中世	(文)笹尾塁跡(町教委)
33	雪車	上笹尾雪車、下笹尾宮の前	畑、宅地	〃 790	縄文中(曾利) 弦生中	
34	源氏籠	上笹尾源氏籠	畑、水田	〃 800	縄文早、前(諸磯A、B) 中(五領ヶ台、新道、藤内、井戸尻、曾利)後(堀の内)晩(氷)弥生中	(所)今井兵衛

No.	遺跡名	所在地	地目	地形、標高	遺物	備考
35	長尾根	上笹尾長尾根	畑、水田	尾根 820	縄文前(諸磯C)中(五領ヶ台、曾利) 弥生中、平安	
36	滝の前	上笹尾滝の前	水田、畑	斜面 870	縄文前(諸磯B)中(井戸尻、曾利)後(堀の内)	S 38.
37	中林	上笹尾中林2166	宅地、桑、畑	尾根 820	縄文中、平安	
38	御崎	上笹尾御崎	畑、桑	窪地 790	縄文中、平安	
39	単尾(ネゾー)	上笹尾単尾	宅地、畑、桑	尾根 790	縄文前(諸磯B) 縄文中(五領ヶ台、藤内、曾利)後(堀の内)弥生中、平安	㊐青木春重 ㊏根造 S 47.
40	寺田	上笹尾寺田	宅地、桑	〃 795	縄文中、平安	
41	江戸山	下笹尾江戸山	桑	〃 780	縄文前(十三菩提)中(曾利)弥生中、平安	
42	西堀込南	上笹尾西堀込	桑	〃 800	弥生中	
43	西堀込北	上笹尾西堀込、高原	桑、畑	〃 810	縄文前(諸磯B)中(五領ヶ台、曾利)	㊏高原 S 38. S 47.
44	上駒場	上笹尾上駒場	桑、牧草	丘陵 840	弥生中	
45	穴之沢	上笹尾穴之沢	桑、牧原	尾根 840	縄文中(五領ヶ台)	
46	西三蔵主	上笹尾西三蔵主	桑、畑	〃 840	縄文前(諸磯C) 中(五領ヶ台)平安	
47	柳沢北	松向柳沢	桑、山林	斜面 820	縄文中(五領ヶ台)	
48	宝ヶ森	松向宝りヶ森	桑、畑	800 800	縄文中、古墳時代	
49	本村	松向本村	桑、宅地	〃 780	平安	
50	前田北	下笹尾前田北	桑、宅地、水田	〃 770	縄文前(諸磯B)中(曾利)平安	
51	深町	松向深町	桑、畑	〃 770	縄文中(五領ヶ台、曾利)平安	
52	前田南	下笹尾前田南	水田、畑、桑	丘陵 750	縄文中(曾利)後(堀の内)平安	
53	蔵屋敷	下笹尾蔵屋敷	畑、宅地	斜面 740	縄文中、平安	
54	向原	下笹尾植木林向原	桑、山林	丘陵 740	縄文中(藤内)弥生中	
55	頭佐沢南	下笹尾頭佐沢	山林、桑、牧原	尾根 710	縄文中、弥生中	
56	頭佐沢北	下笹尾頭佐沢	桑、山林	〃 730	縄文中	
57	横山	松向横山	桑、山林	斜面 810	縄文中	
58	杉の木平	松向杉の木平	桑、畑	〃 810	(旧石器)縄文中、平安	
59	柳沢南	松向柳沢南	桑、山林	尾根 810	縄文中	㊏柳沢 S 47.
60	神田	松向神田	桑、牧草	〃 840	縄文晩、弥生中、平安	㊏神田とは別遺跡
61	小野	上笹尾女取区小野	桑、畑	〃 870	縄文中(井戸尻、曾利)平安	
62	広面南	松向広面	桑、畑、山林	丘陵 710	縄文中(曾利)平安	
63	広面北	松向広面	桑、畑	微高地 710	平安	
64	篠八田	上笹尾女取区篠八田	桑、畑	尾根 910	縄文中(曾利)晩(末)弥生中	㊏篠原御料地 S 38. S 47.
65	上圧	尾根上圧	宅地、畑	斜面 890	縄文中 (曾利) 平安	
66	天神森	尾根天神森	宅地、畑	斜面 900	縄文中(井戸尻) 弥生	
67	西上圧	尾根西上圧	宅地、畑	尾根 920	縄文中	削平されて消滅か(?)


至ちの
至こもろ
至清里
至東京方面
至こ
至韮崎
上諏訪
国道20号線
前田遺跡
1 : 25,000
0
500
1000
1500
2000
2500
N

第2図　小淵沢町の遺跡

III 調査の方法と層序

1）調査の方法

調査区は昭和62年度の試掘調査によって遺構が存在することが明らかであったため、表土を重機によって遺構確認面まで剥ぎ、その後全域を人力によって鋤簾がけを行い遺構を検出した。

確認面での遺構検出後、遺構の調査にあたり、磁北に基づく東西南北を基準線とする10メートル方眼のグリットを調査区全域にかかる様設定した。

2）層　　序

本遺跡に於ける基本土層は次の通りである。地目が畑地と水田であったため2種の層序を呈していた。

水田

第1層　黒色土（いわゆる黒ボク）、耕作土層

第2層　茶褐色土（鉄分集積、水田の床土）

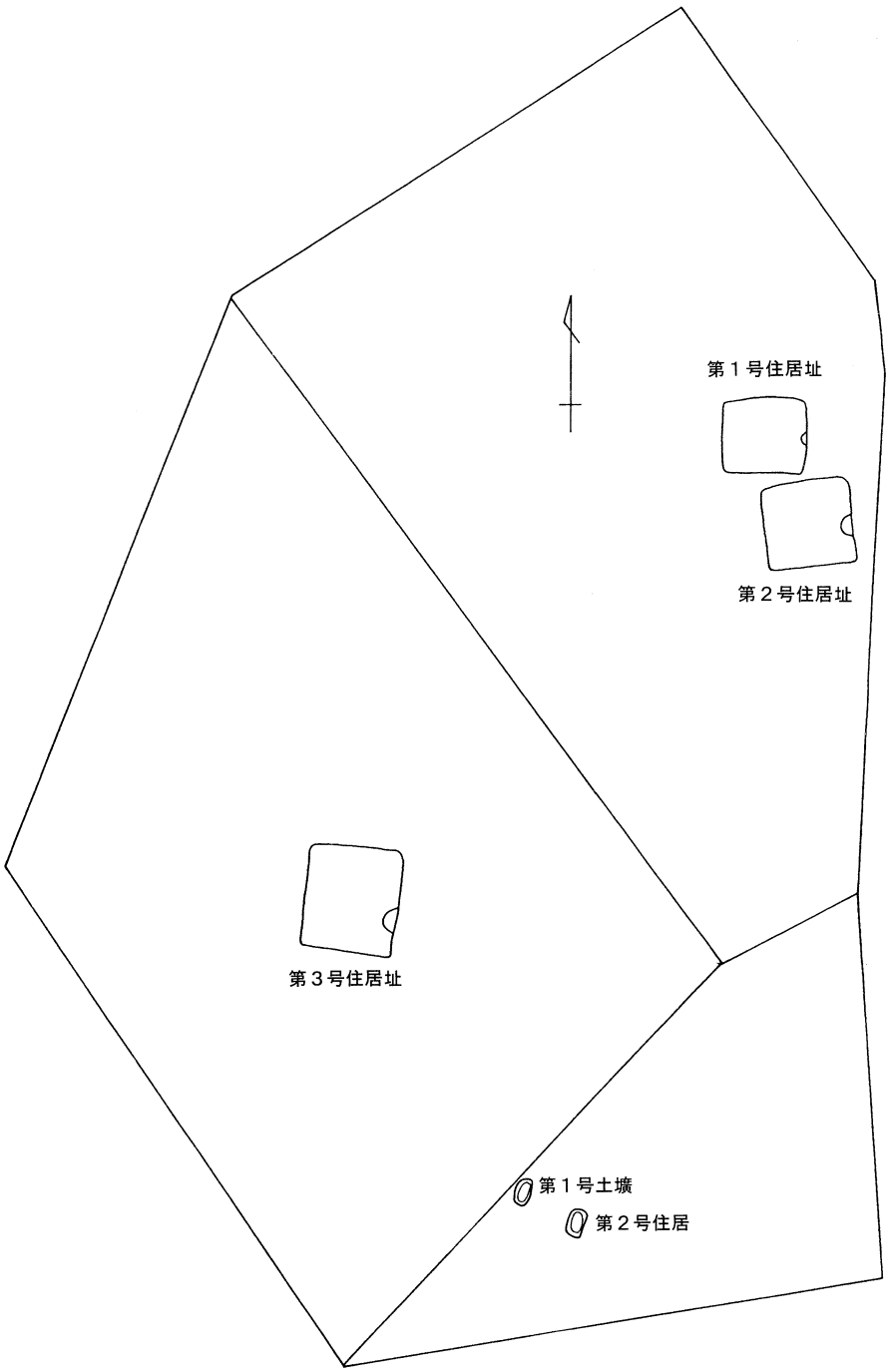
第3層　黄褐色土（ハードローム）

畑

第1層　黒褐色土（耕作土）

第2層　黄褐色土（ソフトローム）

第3層　黄褐色土（ハードローム）



遺構配置図（第３図）

Ⅳ 遺　構　と　遺　物

1）第1号住居址（第4図）

位　　置　　発掘区の北東側に位置し、第2号住居址に接する。
規　　模　　北壁 4メートル、東壁 3.5メートル、南壁 4メートル、西 3.6メートル
平 面 形　　隅丸方形
主軸方向　　N－88° －E
柱　　穴　　P1～P3の3個検出された。P2～P3がその位置、規模により主柱穴と考えられる。
周　　溝　　カマドの南側を除き、全周する。幅 10～20センチ、深さ5～10センチメートル。
床面状態　　比較的堅緻で、ほぼ平らである。
壁　　高　　ほぼ垂直に立ち上がり、20センチメートルを測る。
カ マ ド　　東壁の中央に構築され、全長 90センチメートル、幅 100メートルを測る。

出土遺物（第7図）

1は、内外共に赤褐色を呈する蓋。2～3は甕形土器の底部。4～5は甕形土器の口縁部片

2）第2号住居址（第5図）

位　　置　　発掘区の北東側にあり、第1号住居址と接する。
規　　模　　北壁 4メートル、東壁 4.3メートル、南壁 4.5メートル、西壁 4.4メートル
平 面 形　　隅丸方形
主軸方向　　N－88° －E
柱　　穴　　P1～P4まで4個検出され、P2～P4が主柱穴と考えられる。平面形は、P2とP3が楕円形、P4が円形を呈する。
周　　溝　　四壁下を全周しており、幅 12～25センチメートル、深さ 10センチメートルを測る。
床面状態　　ローム層中につくられ、全体としては堅緻である。
壁　　高　　やや傾斜をもって立ち上がり、北壁 40センチメートル、東壁 42センチメートル、南壁 38センチメートル、西壁 40センチメートルを測る。
カ マ ド　　東壁のやや南側に構築されており、全長 1.5メートル、全長 1.4メートルを測る。袖石は両袖共に抜かれていた。

出土遺物（第7、8図）

1は須恵器坏形土器で口径 12センチメートル、器高4センチメートルを測る。2は土師器坏形土器で口径 10センチメートル、器高4センチメートル、底部5センチメートルを測る。外面にヘラケズリが施されている。色調は赤褐色を呈する。3～4は色調赤褐色で、外面にヘラケズリが施される。5～7は土師器皿形土器である。8は灰釉陶器で口径 16センチメート

ルを測る。9は須恵器壺形土器。10～14 は土師器甕形土器。15 は硬砂岩製の砥石。

平 面 形　　隅丸長方形

主軸方向　　N－89°－E

柱　　穴　　P 1～P17 の 17個検出されており、そのうち 16個が主柱穴と考えられる。

周　　溝　　全周する。幅 10～20センチメートル、深さ 20センチメートルでU字形を呈する。

床面状態　　ほぼ平坦である。

壁　　高　　垂直に立ち上がり、40～50センチメートルを測る。

カ マ ド　　東壁中央よりやや南側に構され、全長 1.4メートル、幅 80センチメートルを測る袖石は平石を用いて、白色粘土、ロームブロックで支えられる。

出土遺物（第9、10、11図）

1～9は土師器坏形土器である。1は口径 12センチメートル、器高5センチメートル、底部ヘラケズリ。2は口径 12センチメートル、器高 3.5センチメートル、底部 4センチメートル、外面ヘラケズリ。9は内面黒色である。10～12 は土師器皿形土器。13 は高台付土師器坏形土器であり、伏の墨書が見られる。14 は内面黒色の土師器坏形土器。15～18 は灰釉陶器。19 は須恵器甕形土器。20 は灰釉短頸壺。21 は須恵器壺形土器の底部。22 は鎌の先端部分。23 は鉄滓。24～26 は土師器甕形土器。

第1号土壙（第12図）

位　　置　　発掘区の南隅に位置する。

規　　模　　1.98 ×2.5メートル

平 面 形　　不整楕円形

壁　　高　　ほぼ垂直に掘り込まれている。

底　　平坦である。

出土遺物　土師器土器片が数点出土した。

第2号土壙（第12図）

位　　置　　発掘区の南隅に位置し、第1号土壙に隣接する。

規　　模　　2.2 ×2.7メートル

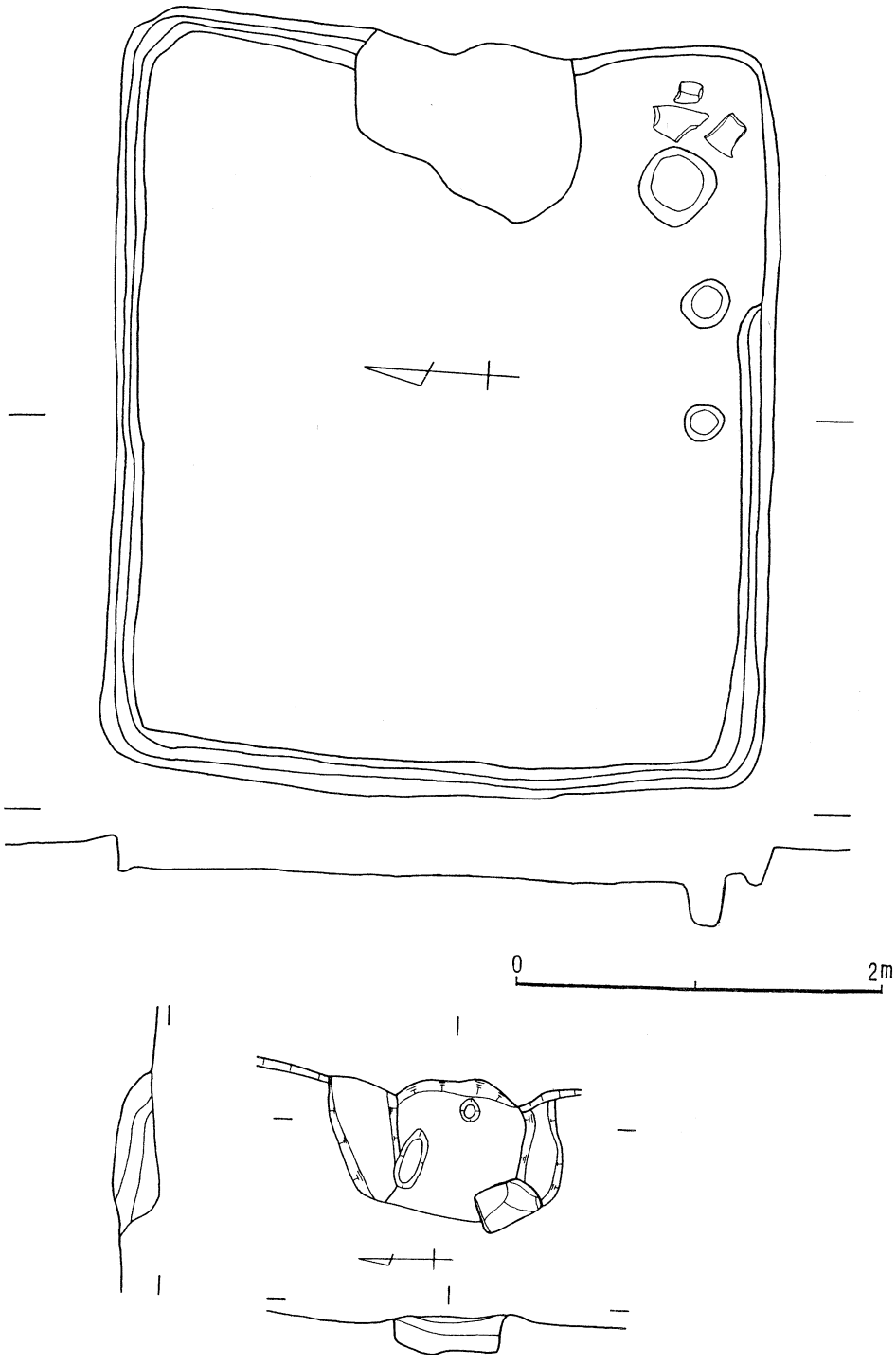
平 面 形　　楕円形

壁　　高　　垂直に立ち上がる。

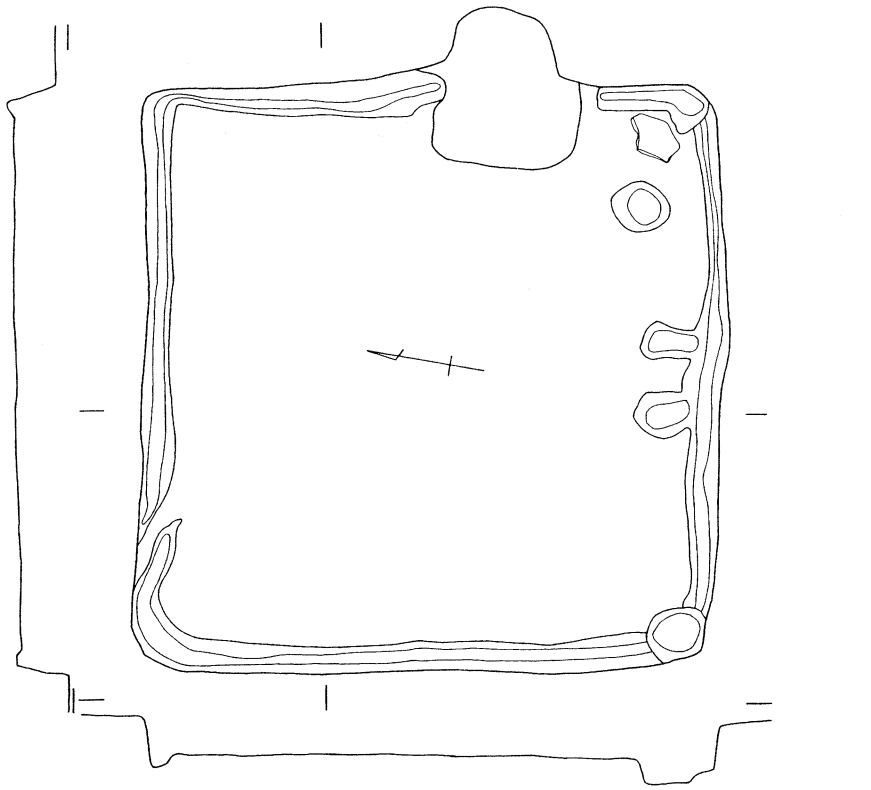
底　　ほぼ平坦であるが軟弱である。

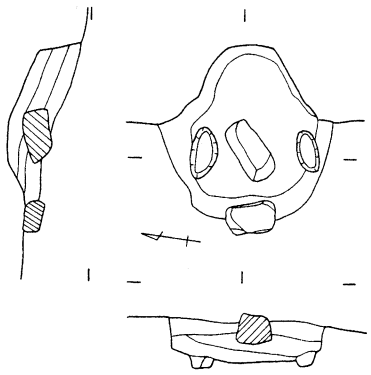
出土遺物（第12図）

壙底より須恵器甕形土器の底部が出土した。

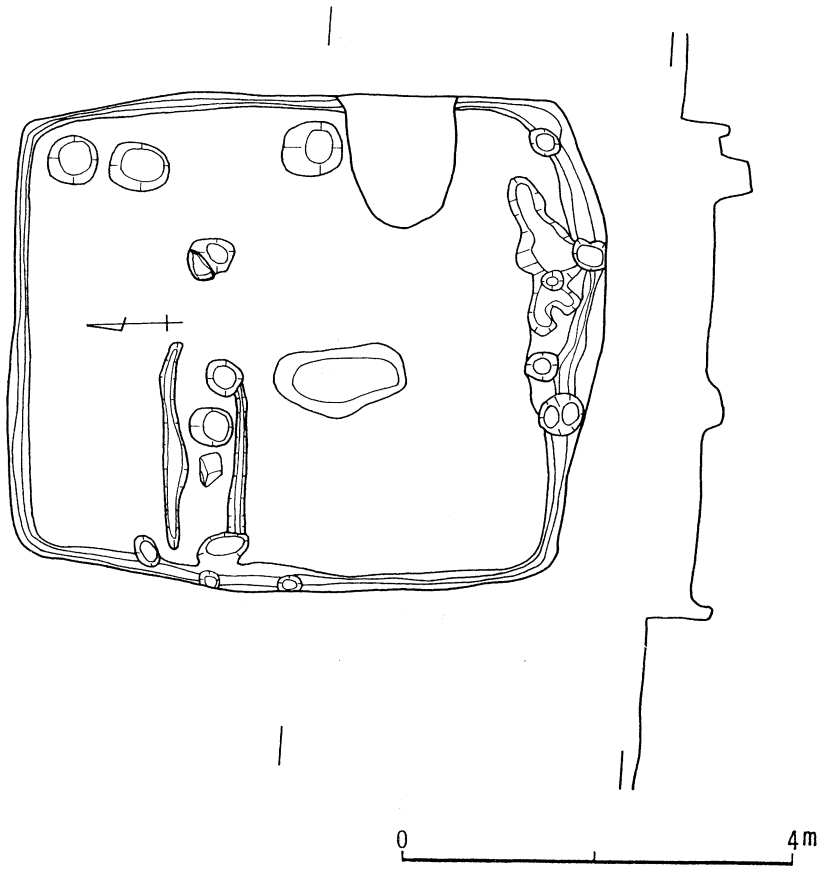


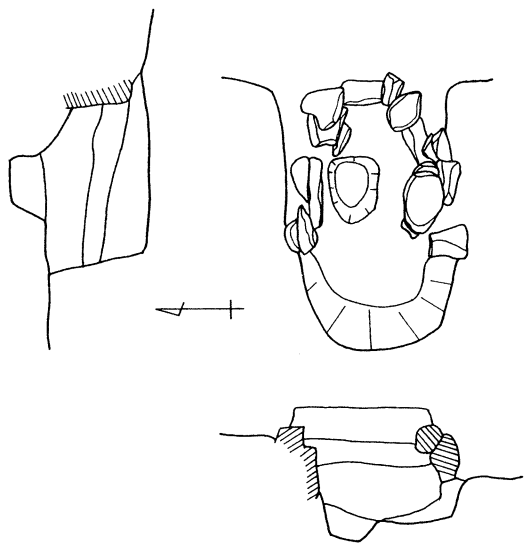
第１号住居址平面図とカマド平面図（第４図）



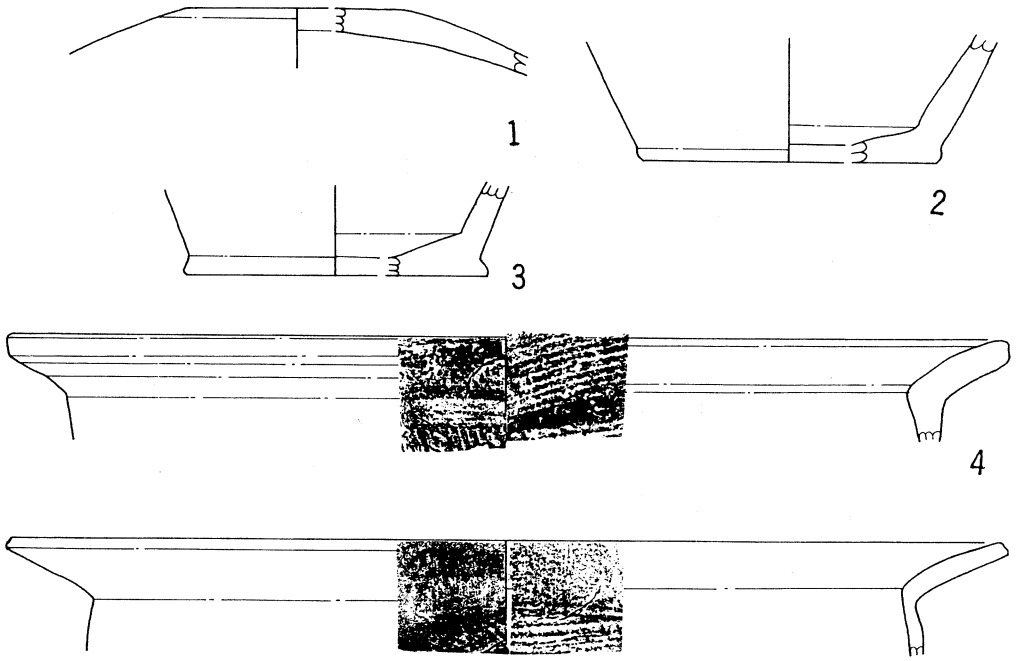


第２号住居址平面図とカマド平面図（第５図）

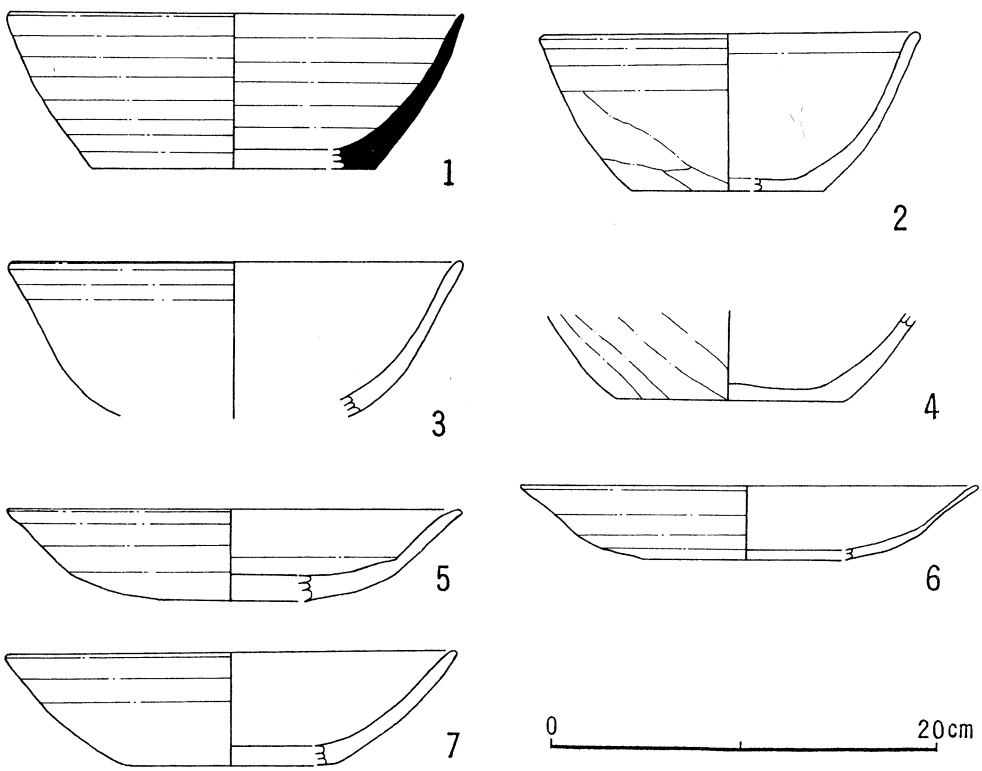




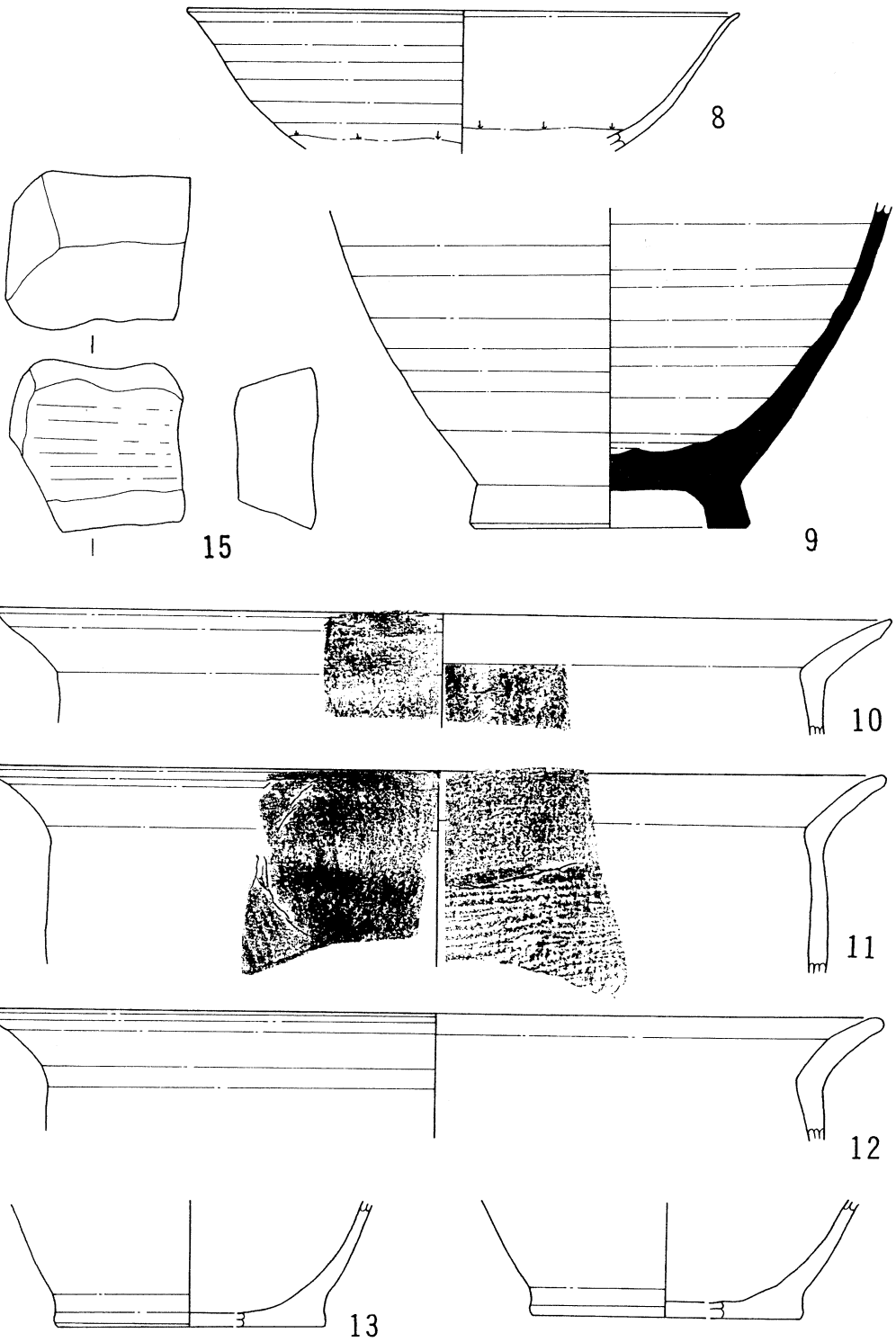
第３号住居址平面図とカマド平面図（第６図）



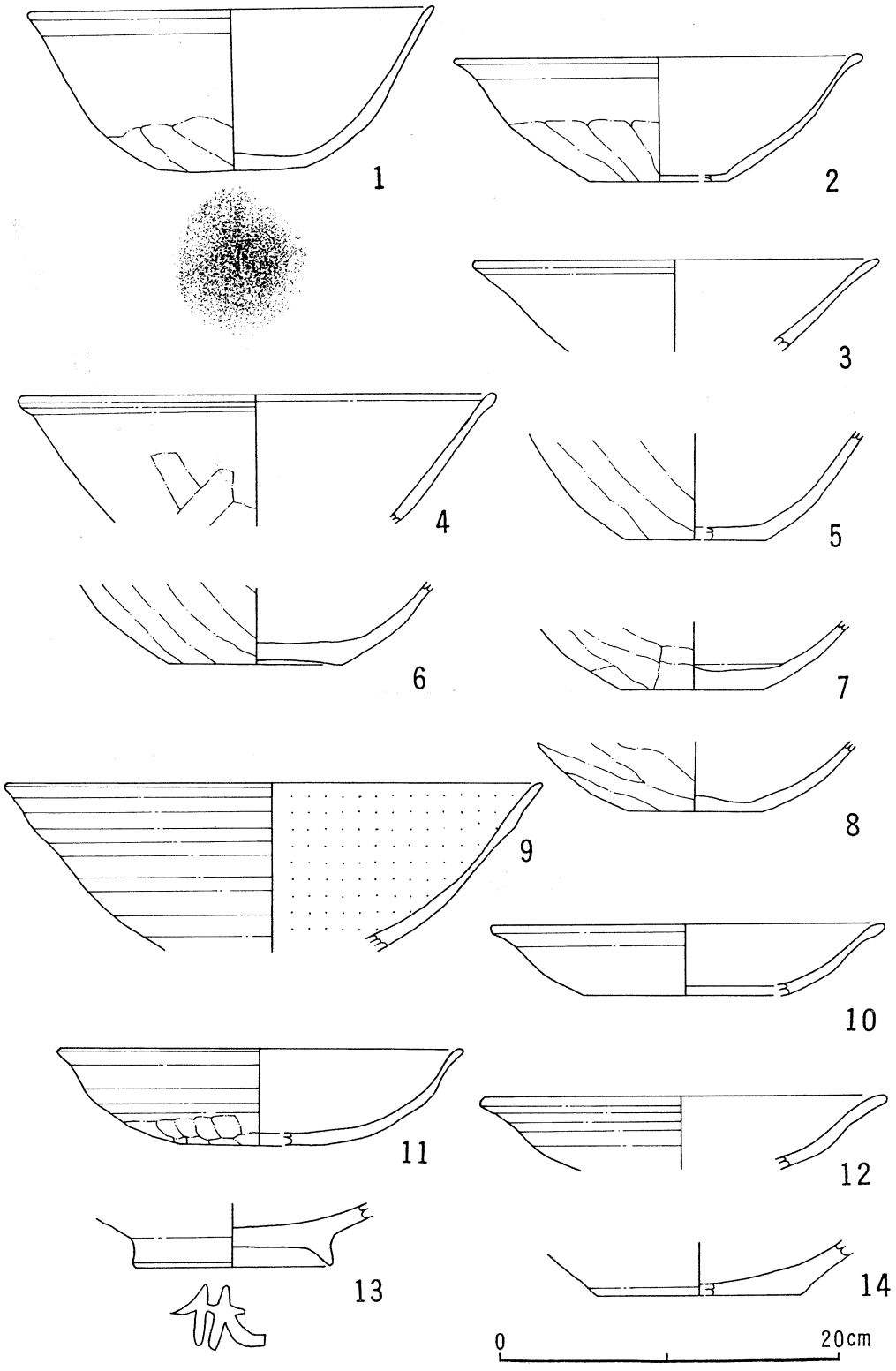
第１号住居址出土遺物（第７図）



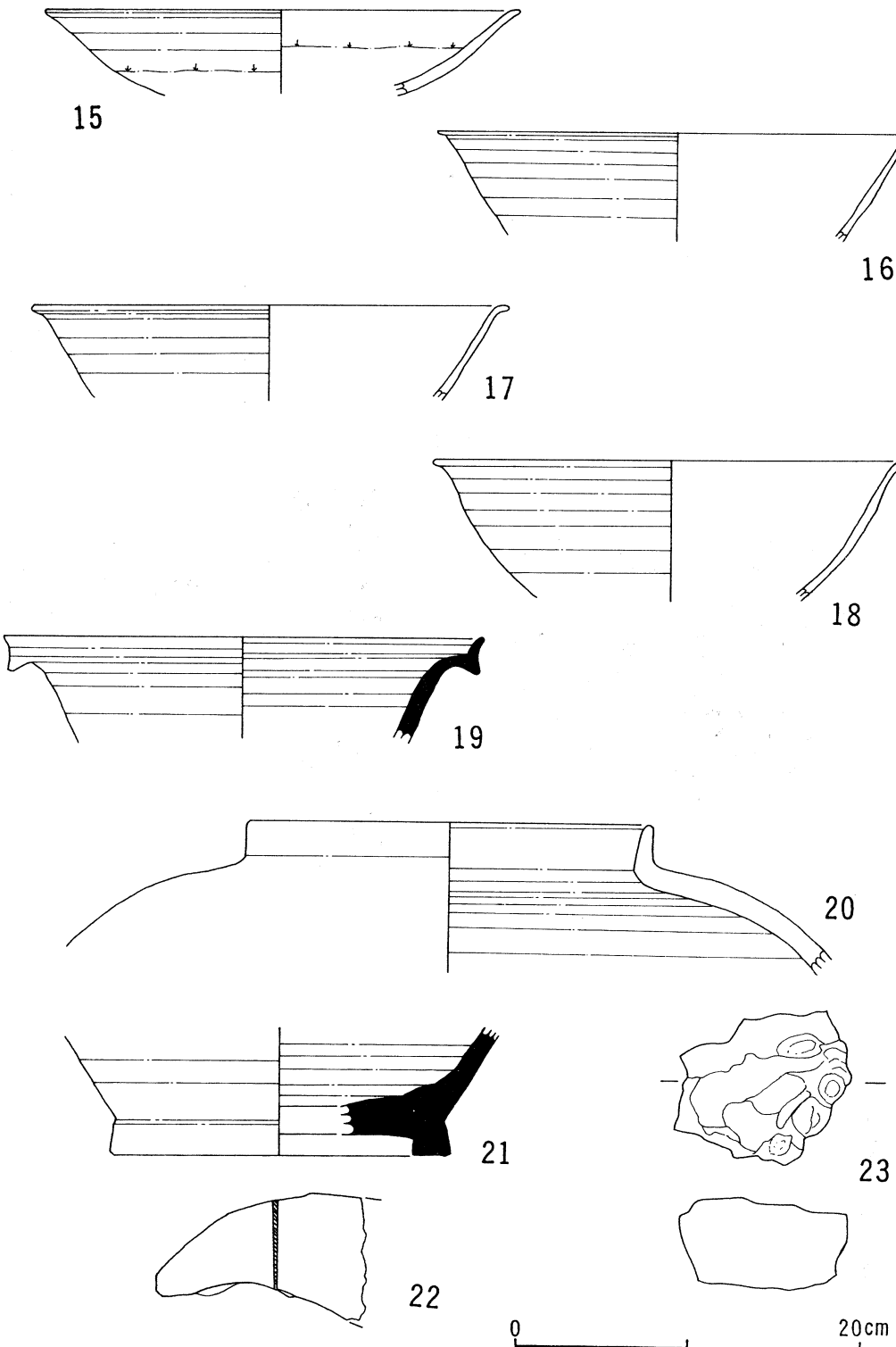
第２号住居址出土遺物（第７図）



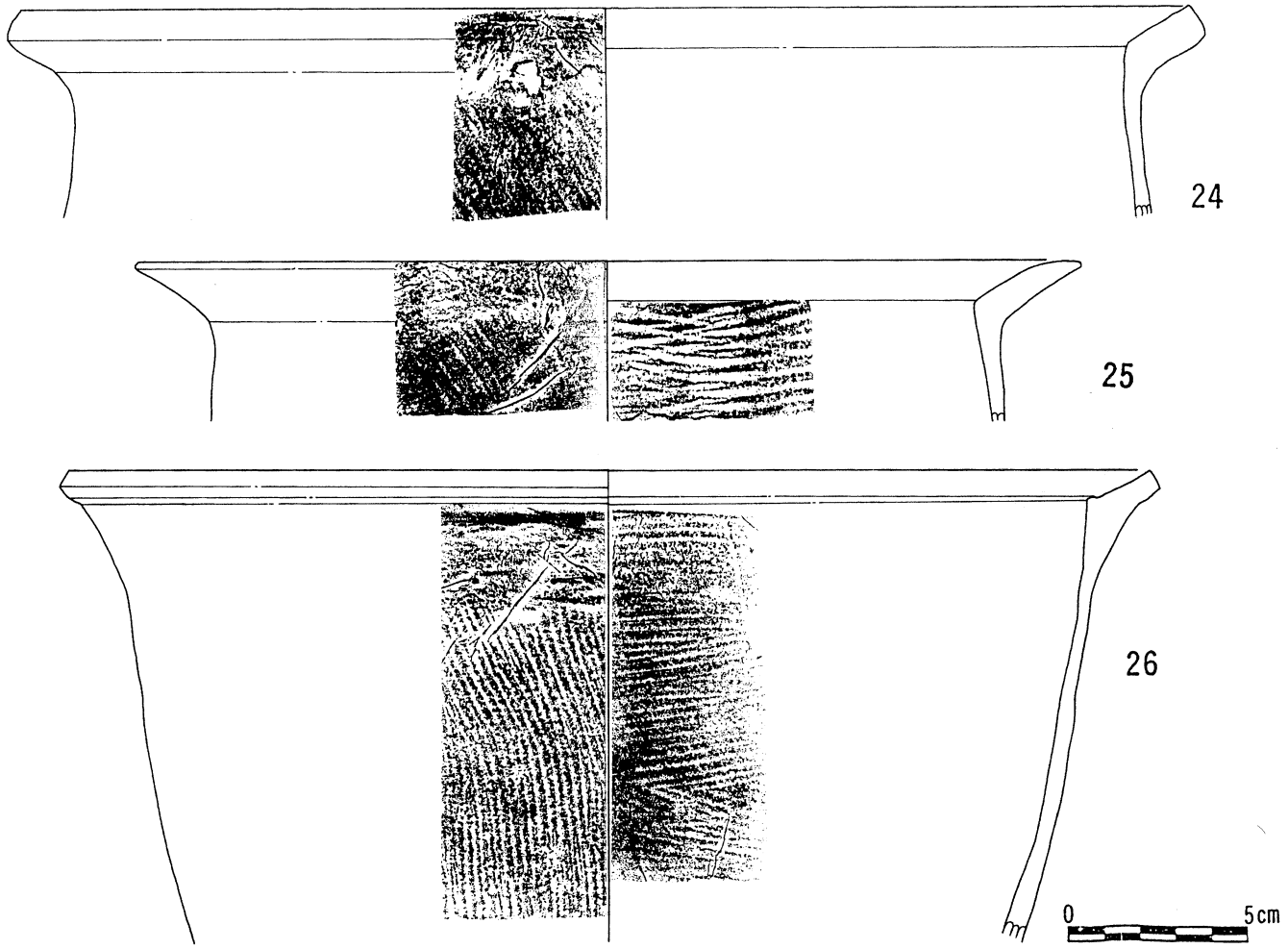
第２号住居址出土遺物（第８図）



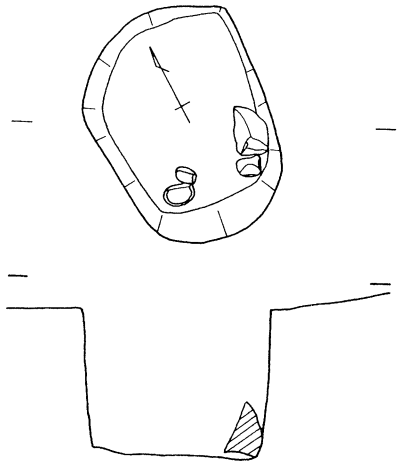
第３号住居址出土遺物（第９図）



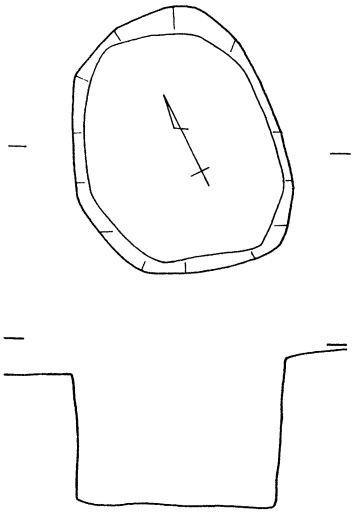
第３号住居址出土遺物（第10図）



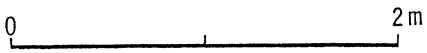
第３号住居址出土遺物（第11図）

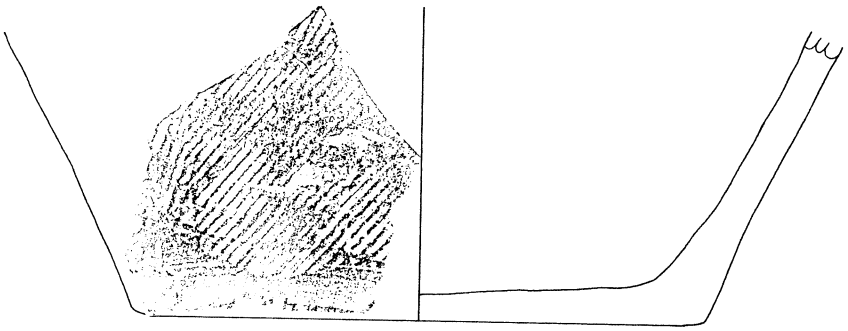


第１号土壙平面図（第12図）



第２号土壙平面図（第12図）





第１号土壙出土遺物（第12図）

Ⅴ　ま　　と　　め

神田遺跡は発掘調査の結果、平安時代の生活址として竪穴住居址3軒、土壙2基が検出された。最後にその概要を記してまとめとしたい。

竪穴住居址

竪穴住居址は遺存状態が比較的良かった。形態は長方形、方形を呈し、規模は 3.5メートルか 5.5メートルを測る。主軸方向は類似がみとめられる。カマドは3軒共に認められ、東壁に構築されていた。柱穴は第1号住居址、第2号住居址で南側に集中して確認された。第3号住居址からは間じきり溝と考えられる溝が検出され、壁穴住居址の生活空間を考える上で貴重である。

土　　壙

土壙は形態が楕円形を呈し、比較的深く、壁は垂直に立ち上がっていた。本遺跡の土壙の性格は形態や出土遺物から墓壙として使用されたもので、時期は竪穴住居址と同時期と考えられる。

出土遺物

ここでは比較的多く出土している土師器坏形土器について触れる。本遺跡で出土した土師器坏形土器は次の2種類に分類できる。

1類　胴部下半に横ないし、斜方向のヘラケズリが施され、色調は赤褐色を呈する。

2類　内面黒色土器である。

1類はいわゆる甲斐型と呼ばれるものである。2類は北巨摩地域で多くみられる内面黒色の土器で信濃型と呼ばれるものである。1類、2類の時期は坂本氏等の編年によると 10世紀の第4四半期に位置付せられる。

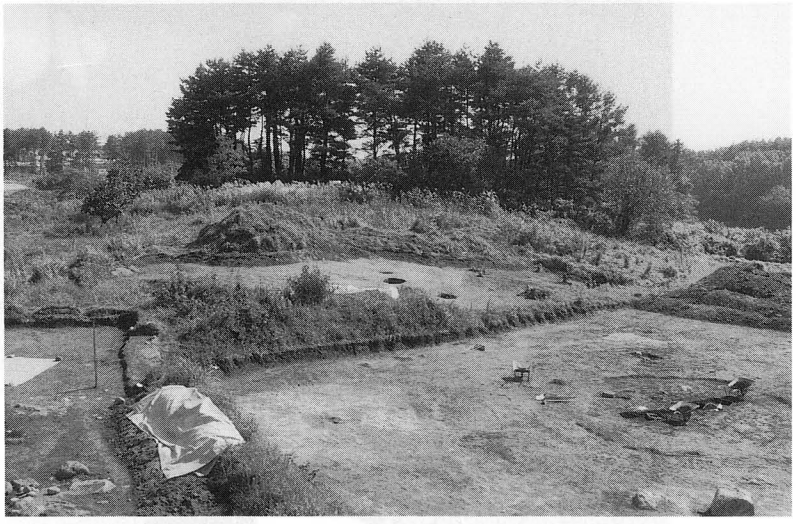
参　　考　　文　　献

坂本美夫他1983年「シンポジウム、奈良、平安時代の諸問題－相模国と周辺地域の様相」『神奈川考古』第14号

図　　版

図　版　1

遺跡遠景



遺跡近景

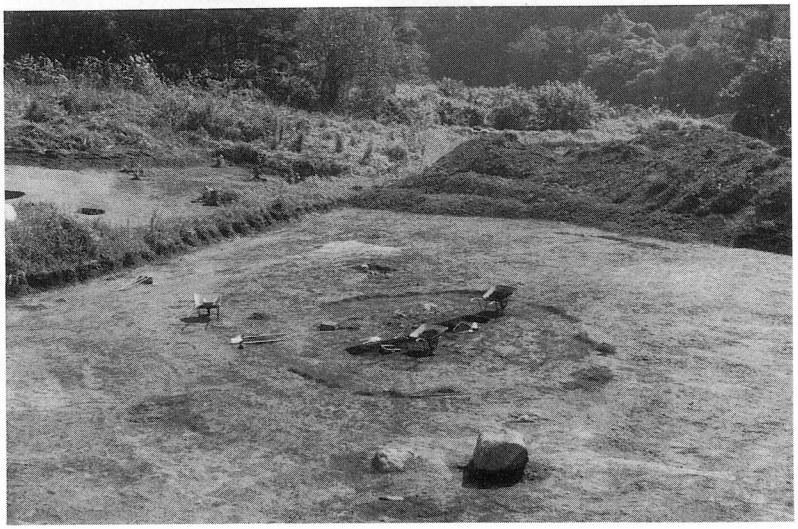


図 版 2

作 業 風 景

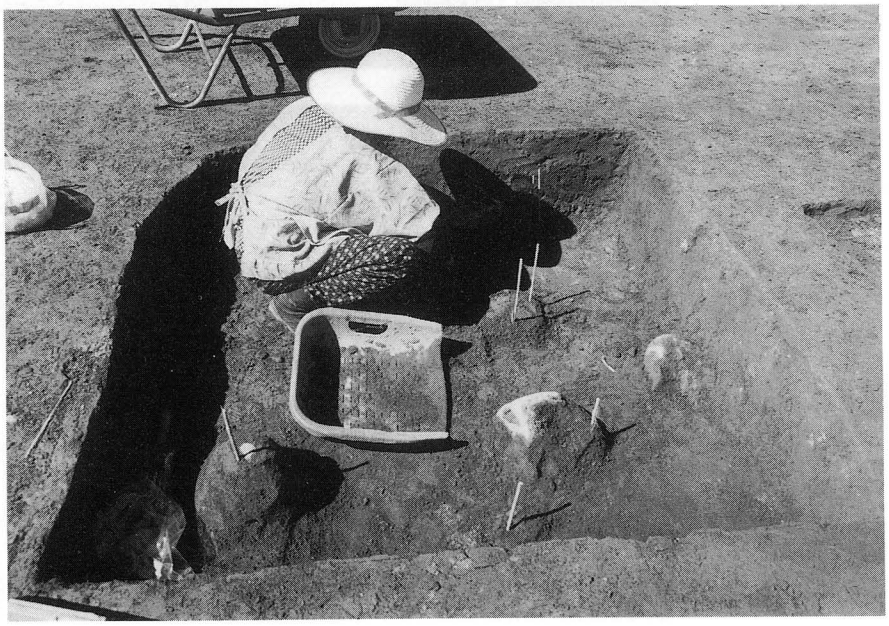


図　版　3

第２号住居址

第１号住居址

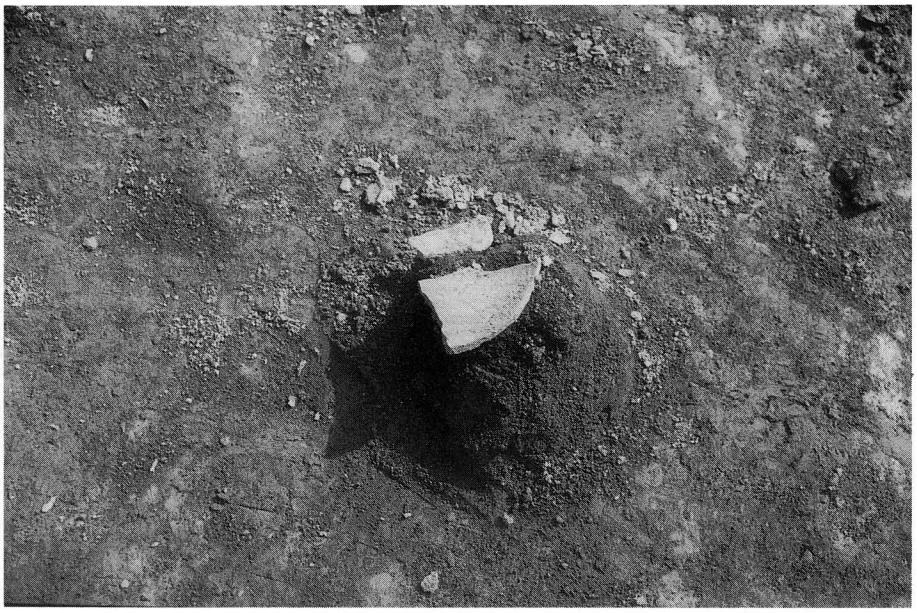
第２号住居址

図　版　4

第２号住居址

第２号住居址カマド

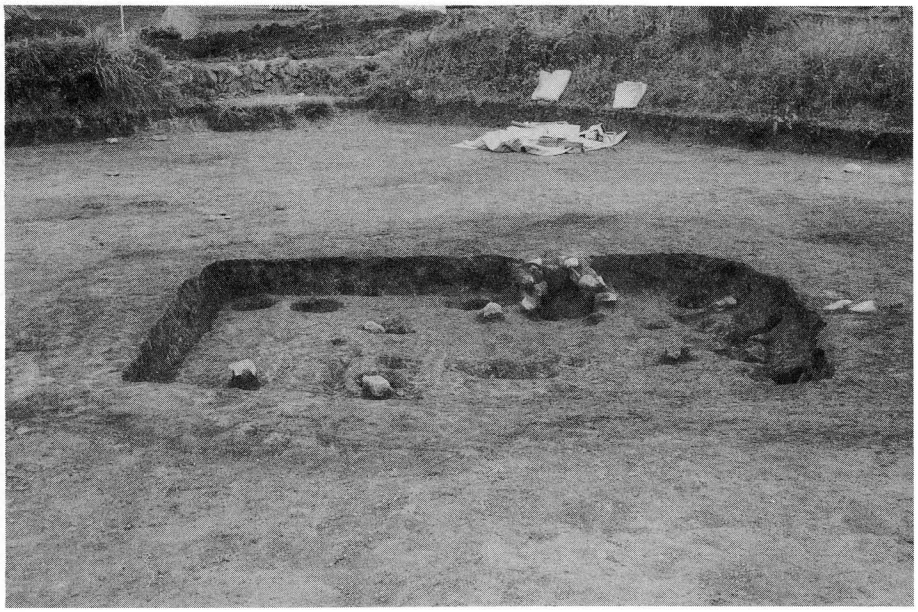
図　版　5



第２号住居址遺物出土状態

第２号住居址砥石出土状態

図　版　6



第３号住居址

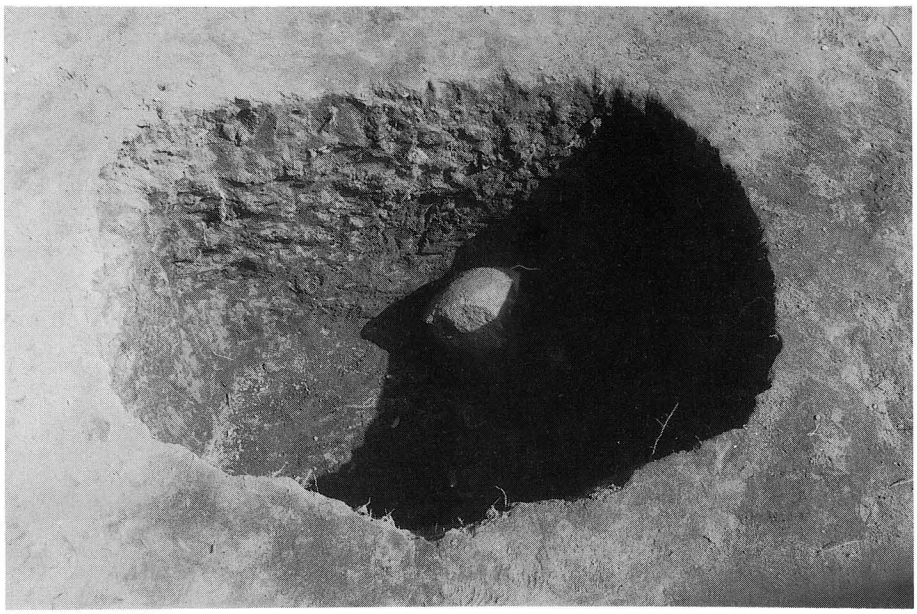
第３号住居址

図　版　7

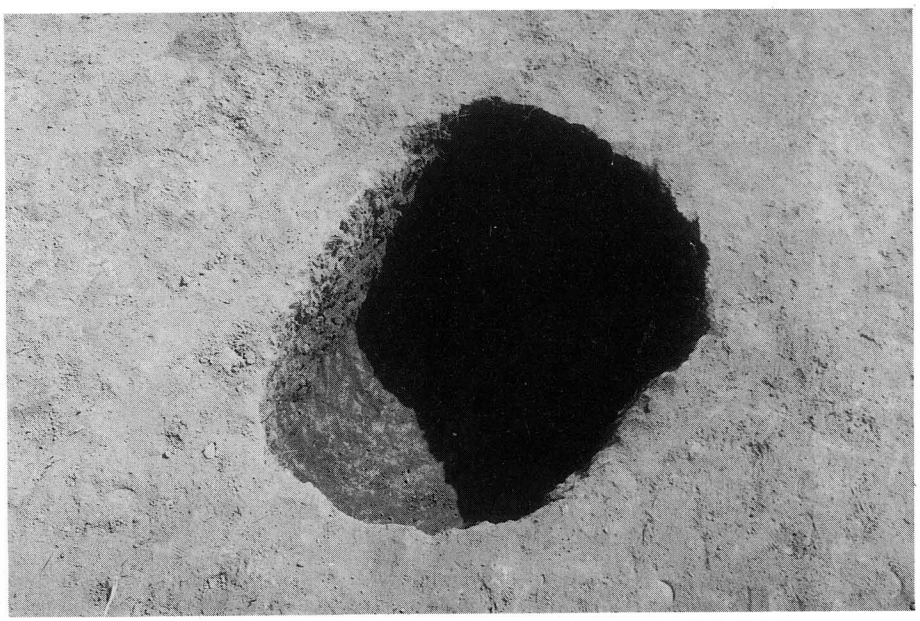
第３号住居址カマド

第３号住居址カマド

図　版　8

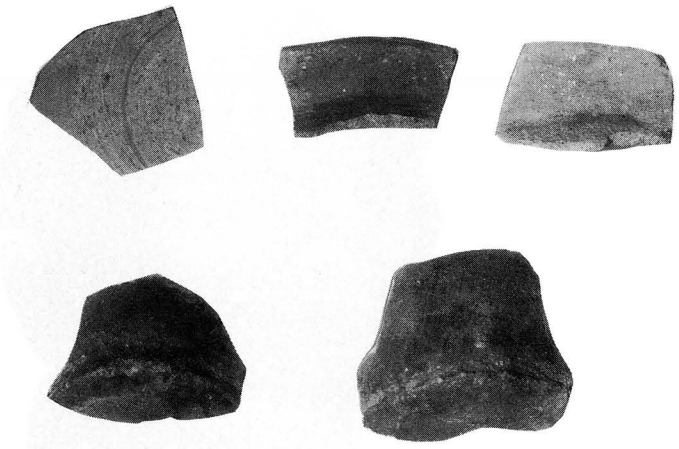


第１号土壙

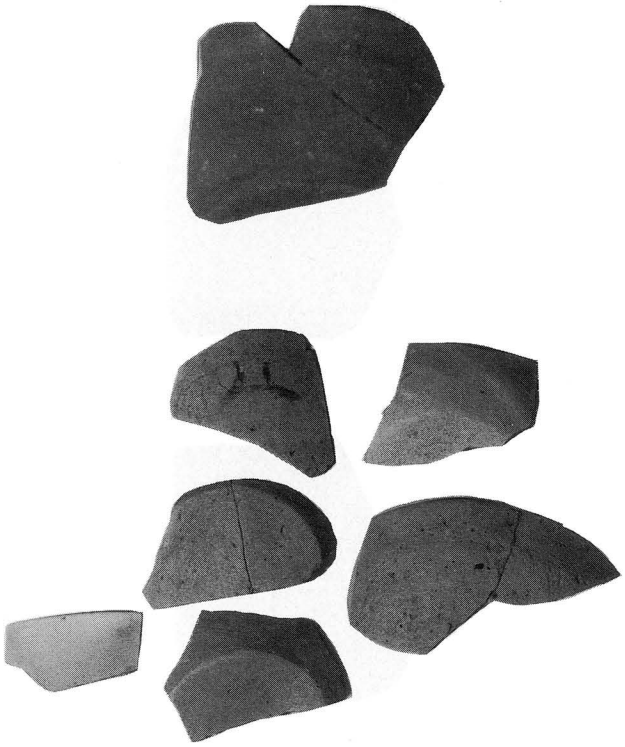


第２号土壙

図　版　9



第１号住居址出土遺物



第２号住居址出土遺物

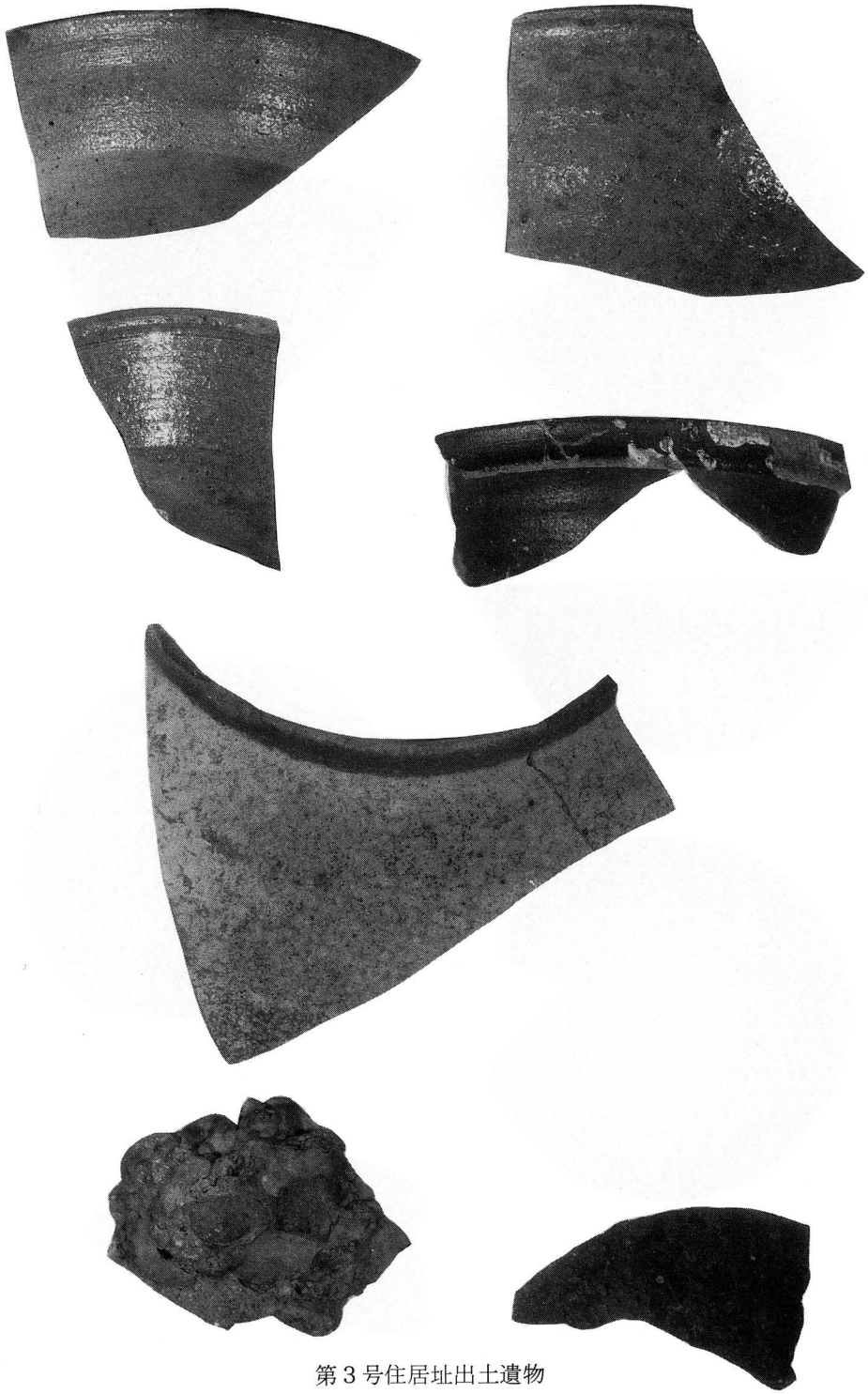
図　版　10

第２号住居址出土遺物

図　版　11

第３号住居址出土遺物

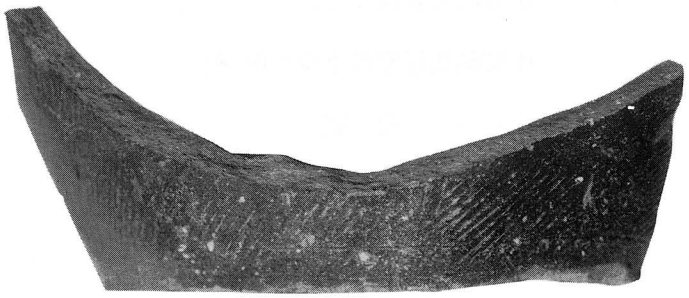
図　版　12



第３号住居址出土遺物

図　版　13

第３号住居址出土遺物



第１号土壙出土遺物

神　田　遺　跡

発行日

平成元年３月31日

発　行

小淵沢町教育委員会

山梨県北巨摩郡小淵沢町 835

印　刷

峡北印刷株式会社